

論壇

世界の主要国とギャップ

世界の主要国の大学生がどの程度の時間を勉強にかけているのか。その国際比較のデータをみると、日本の大学生の勉強時間が極めて少ないことがわかる。手元にデータがないので正確な数字は言えないが、かなりシヨッキングな数字であったと記憶している。実際、大学生の生活を見ていると、勉強時間が少ない。別に遊んでいるというでもない。運動などのクラブ活動に精を出す学生も少なくない。朝早く家を出て授業前にトレーニングをして、そして放課後遅くまでまたトレーニング

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

をしている。これでは授業に出るだけで精いっぱいだろう。その授業でも疲れて居眠りをする学生もいる。運動などに精を出さない学生でも、アルバイトに多くの時間をかける人が少なくない。アルバイトなどで仕事の経験をすることは若者には貴重な機会ではあるが、生活の中心が学業ではなく、図書館での勉強を中心に回っている。

勉強しない日本の大学生

アルバイトになってしまっている学生が多い。もう30年以上前のことになるが、米国のハーバード大学で研究生活を送ったことがある。大学が用意してくれた家族寮は、学部の学生が利用する図書館の近くにあって、自宅で夕食を取った後、その図書館に行くと、多くの学生が深夜まで勉強をしている。多くの学生は寮生活をしているので、寮に隣接した図書館の中で生活をしているというような感覚だ。おしやべりもすれば、コーヒーも飲むので、ずっと机に向かって勉強をするという訳ではないが、生活が

廊下などで勉強しているようだ。劣悪な設備の中でも勉強に励む者が多い。残念なことだが、こうした海外で見えた光景と、日本の大学生の現状の間には大きなギャップがある。勉強しない大学生を見ていると、日本の将来が不安になってくる。

ある種の悪平等意欲そぐ

昔からよく言われていることだが、日本は大学に入るために一生懸命に勉強をする。ただ、大学に入ってからいざしまえば、その後は卒業できればよい。まるで、大学をクラブ活動やアルバイト生活のたのめの場合と考えている人が少なくない。これでは何のために大学に入るのか分からない。

米国や中国の学生が一生懸命に勉強するのは、大学の成績が自分の将来に直結するからだ。日本の大学生で勉強しない人が多いのは、卒業さえできれば、大学の時代に勉強するかどうかに関係なく一定の給料がもらえるからだ。年功賃金の下では、その人の努力や能力によって賃金に大きな違いが出るわけではない。ある種の悪平等が、勉学の意欲をそいでいる面もある。

こうした事態は改善しなくてはいけない。企業や社会が、勉強する大学生をもっと評価する仕組みが必要だ。大学の側にも、社会が求める人材を輩出できるように教育内容の改善が求められる。日本の将来のためにも、大学の教育改革は緊急の課題である。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。